

令和7年度 第1学年 シラバス

SYLLABUS



三重大学教育学部附属中学校

もくじ

Ⅰ シラバスについて

シラバスについて		1
三重大大学の目標と附属中学校の研究について		2
教育課程授業時数一覧表・年間テスト計画表		3
シラバスの見方・評価と評定について		4

2 各教科の学習の仕方および年間計画

国語科		5～6
社会科		7～8
数学科		9～10
理科		11～12
音楽科		13～14
美術科		15～16
保健体育科		17～18
技術・家庭科		19～22
英語科		23～24

シラバスについて

シラバスとは、各教科の学習内容や学習方法、評価の仕方などを記した総合的な学習計画のことです。本シラバスでは、本校の教育目標－豊かな創造性とたくましい実践力を持ち、生活をきりひらく生徒の育成－を実現するために、各教科の具体的な指導内容・方法、評価の方法を示しています。

まず、教科ごとに、「評価の観点と評価方法」について具体的に示してあります。そして、学習の仕方を、[授業中]、[家庭学習]に分けて、それぞれ大切にしてほしいことを具体的に記載しました。次に年間の「指導計画」を示しました。

生徒の皆さん、ここには1年間の学習内容が詳しく書かれていますので、ぜひ、毎日の授業や自宅での学習において、計画的・主体的に学習に取り組むことができるように、1年間の学習の「道しるべ」として積極的に本シラバスを利用してください。

また、保護者および地域の皆様におかれましては、本校の具体的な学習内容等をご確認いただき、お気づきの点などがありましたらお知らせいただければ幸いです。本校の教育目標に沿ったより良い教育を実現できるように、ご理解・ご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

令和7年4月

三重大学教育学部附属中学校長

成田 達也

1. 三重大学の基本理念及び目標

三重大学の力を世界へ

大学と地域の調和

大学と自然の調和

研究と教育の調和

基本理念 三重から世界へ 世界から三重へ 未来を拓く地域共創大学

地域に根ざし、世界に誇れる教育・研究に取り組み、人と自然の調和・共生の中で、社会との共創に向けて切磋琢磨する。

目標 教育 幅広い教養を身につけるとともに高度な専門知識や技術を有し、国際的な視野を持ち、社会のイノベーションを推進できる人材を育成します。

研究 世界に貢献する特色ある先端研究、地域に根ざしたオンリーワン研究、社会課題の解決につながる応用研究、さらに未来を拓く多様な基礎研究に取り組み、国際性と高い倫理性を備えた研究活動を行います。

社会貢献 豊かで健康な持続可能未来社会の実現を目指し、産学官民の連携を深め、地域との協働・共創の拠点として諸課題の解決に取り組み、それら成果を社会実装することで、社会の発展と活性化に貢献します。

2. 三重大学教育学部附属中学校の学校目標及び研究テーマ

● 学校教育目標

豊かな創造性とたくましい実践力をもち生活をきりひらく生徒の育成

● 附属中学校 第32次 研究テーマ

「探究活動を中心としたカリキュラムを通して生活や社会を切りひらこうとする生徒の育成」

～生徒一人一人のウェルビーイングを目指して～

本校は、現状の教育課題を反映した研究テーマに沿って研究をすすめておりますが、その研究の基盤にあるのは、各教科の授業です。研究テーマは変われど、生徒と教員でよりよい授業をつくっていかうという姿勢は変わりません。現在も各教科等で資質・能力が育成できる授業開発・実践に取り組んでいます。この各教科等の内容と総合的な学習の時間における探究的な学習を結びつけるための計画表を作成し、どの時期にどの教科がどのような授業をしているかを明確にしています。

〈探求的な学習での取組〉

- ・【個人研究】 各個人の興味・関心に沿って、問いや仮説を立てて研究を進める。
- ・【協働】 問題意識の持ち方や研究の方向性によっては協力して活動を進める。
- ・【探究活動】 問題解決に向けて調査等行いながら活動する。
- ・【企業や大学連携】 企業や大学等の専門家から指導を受ける。
- ・【成果発表会】 中間発表会、最終発表会、保護者や専門家、外部団体、教員に向けて成果を発表する。
- ・【まとめ・振り返り】 個人研究をレポートとしてまとめる。

急激に変化する時代を乗り越えていくために、

- ・学んだ知識・技能を使って一人ひとりのウェルビーイングの実現に向けて新しい価値の創造できる
 - ・失敗を恐れず、試行錯誤しながら粘り強く目標達成と自己実現に向けて努力し続ける
 - ・日常生活や社会の中で自分らしく生きるために他者と協力しながら問題発見・課題解決をし、真理の追究ができる
- 以上の資質・能力の育成を目指します。

本校の教育課程授業時数一覧表

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	英語	道德	学活	総合的な学習の時間	合計
1年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015
	4	3	4	3	1.3	1.3	3	2	4	1	1	1.4	29
2年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015
	4	3	3	4	1	1	3	2	4	1	1	2	29
3年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015
	3	4	4	4	1	1	3	1	4	1	1	2	29

※上段：年間時数，下段：週時数

定期テスト実施計画表

		実施時期	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語
1年	1学期中間	今年度は実施しない									
	1学期期末	6/18,19,20	○	○	○	○	○	○	○		○
	2学期中間	10/9,10	○	○	○	○				○	○
	2学期期末	11/19,20,21	○	○	○	○	○	○	○		○
	学年末	2/16,17,18	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2年	1学期中間	今年度は実施しない									
	1学期期末	6/18,19,20	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2学期中間	10/9,10	○	○	○	○	○	○			○
	2学期期末	11/19,20,21	○	○	○	○			○		○
	学年末	2/16,17,18	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3年	1学期中間	今年度は実施しない									
	1学期期末	6/18,19,20	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2学期中間	10/9,10	○	○	○	○					○
	2学期期末	11/19,20,21	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	学年末	1/13,14	○	○	○	○					○

※令和7年4月段階での予定です。

テストは45分間です。

※技家は技術と家庭の2種類のテストで45分間です。

※音美は音楽と美術の2種類のテストで45分間です。

※3年生の3学期学年末テストの日程は、1月13日 14日の2日間で行います。

1. シラバスの見方

第〇学年〇〇科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法(評価物)
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

2. 学習の仕方

【授業中】

授業中、何にどのように取り組めばよいかが具体的に書かれています。より詳しく内容を説明する必要がある場合は、授業中に伝えます。ここに書かれていなくても、授業中の取り組みの様子は常に確認しています。

【家庭学習】

3つになった「評価の観点」と、それぞれの「主に評価の対象となるもの」が書かれています。さらに「主に評価に直接かわるもの」「主に学習の改善に使うもの」にわかれている教科もあります。よく読んで、日々の学習にいかしましょう。

家庭学習等の自主的な学習で、どのようなことに取り組んでいけばよいかが書かれています。テスト勉強につながることも含まれていますが、テスト期間だけでなく、日々の授業を振り返りながら、ここに書かれていることに取り組むことが大切です。

2. それぞれの観点について

(1) 「知識・技能」

各教科等で身につけていく知識や技能の習得状況のことです。基礎的・基本的な知識を習得すればよいというものではなく、社会における様々な場面で活用できる知識として身に付けていくことが重要です。

(2) 「思考・判断・表現」

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するために必要となる思考力、判断力、表現力等のことです。テストだけでなく、パフォーマンス課題や作品の制作、話し合い等多様な活動で発揮される力であり、普段の授業から各教科等の「見方・考え方」をはたらかせて活動に取り組むことが重要です。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」

各教科等の学習内容に関心をもつだけではなく、よりよく学ぼうという意欲をもって学習に取り組む態度のことです。「知識及び技能」を習得したり、「思考力・判断力・表現力等」を身につけたりするために、自分の学習状況を振り返り、学習の進め方を工夫して学んでいこうとしているかが重要です。粘り強い取組を続けながら、学習の進め方を工夫することで学習の質を高め、「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力等」を身につけることにつなげましょう。右図では、それを「①粘り強い取組を行おうとする側面」と「②自らの学習を調整しようとする側面」という形で表しています。より質の高い学習をするための参考にしましょう。

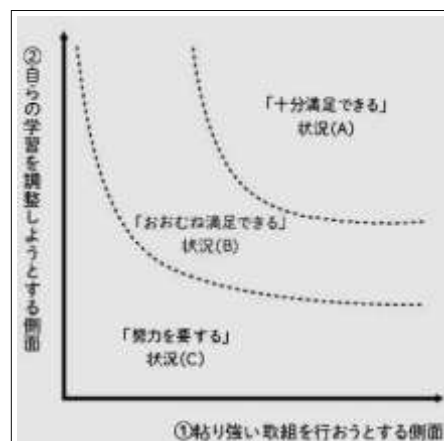


図1 主体的に学習に取り組む態度の評価のイメージ(学習評価の在り方ハンドブックより)

3. 各観点の評価と評定について

各観点の評価はこれまで通り、その観点の達成状況に応じてABCを用いて表します。評定は、3つの観点の平均値をもとに決定します。同じAでも高い水準のものとぎりぎりのものがありますから、各観点のABCの組み合わせが同じでも、評定が同じであるとは限りません。ABBの4もあれば、同じABBの3もあり得るということです。詳しい評価の内容については、三者懇談会等でお問い合わせください。

国語科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法（評価物）	
	主に評定に直接かわるもの	主に学習の改善のために使うもの
知識・技能	定期テスト 単元テスト 書写作品 パフォーマンス課題	小テスト
思考・判断・表現	定期テスト 単元テスト パフォーマンス課題	ノートの記述 ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	振り返りシート 授業用ノート 自主学習ノート 授業での課題 パフォーマンス課題	

2. 学習の仕方

【授業中】

★どの授業でも意識すべきこと

- ・ これまでに学んだことを、文章を読むときや話し合いをするとき、文章を書くときに生かす。
- ・ どのような場面でも、適切な言葉を使う意識をもつ。
- ・ 「文章」や「事実」に基づいて、論理的に考える意識をもって取り組む。
- ・ 自分とは異なる意見を受け入れ、よりよい考えを構築しようとする姿勢をもつ。

★具体的に取り組むべきこと

- ・ 相手の意見をよく聞き、何を根拠にしているかを理解する。
- ・ 文章をうのみにせず、批判的に読む。
- ・ 自分の意見をもち、ノートに書く。
- ・ 明確な根拠に基づいて自分の意見を述べる。
- ・ 振り返りシートにこまめに記入する。

【家庭学習】

★自主学習ノート

- ・ 漢字の練習。言葉の意味調べ。文法、古典などのまとめや問題。【知識・技能】
- ・ 作文し、推敲する。自分なりに授業内容等のまとめを行う。【思考・判断・表現】
- ・ 授業内容をさらに深く調べる。国語にまつわる調べ学習。【主体的に学習に取り組む態度】
- ・ 国語と関連していれば、他教科の内容が中心になった学習も認める。

★教科書を確認する

★読書

- ・ 読書をすることで、さまざまな言葉や考え方に触れられます。
- ・ 少しずつ読む本の幅を広げましょう。特に時代をさかのぼっていくのがおすすめです。
携帯電話がないときの生活など、みなさんが知らない時代の考え方や生活を知ることができます。また、明治時代や大正時代までさかのぼると、文語（今よりも少し古文に近い言葉）で書かれた文章もあり、古文や漢文の学習にもつながります。
- ・ 本や新聞などを読み、その感想を書いてみましょう。最初はメモ程度でもよいので、感想や自分の考えをまとめる練習をすると、考えたことをまとめる力がついてきます。
- ・ 200字程度の作文を約10分で書けるようになるのが目標です。自分で時間を測って、作文を書く時間を作りましょう。

3. 指導計画(第1学年国語科)

1学期		2学期		3学期	
月	教材名(単元名)	月	教材名(単元名)	月	教材名(単元名)
4	・ふしぎ ・聞くということ ・お気に入りの一品を紹介する ・桜蝶	9	・河童と蛙 ・オツベルと象 ・言葉の小窓2 日本語の文字 ・随筆を書く	1	・言葉がつなぐ世界遺産 ・地域から世界へーものづくりで未来を変える ・報告文を整える
5	・文法の小窓1 言葉の単位 ・言葉と社会1 言葉とコミュニケーション ・自分の脳を知っていますか ・漢字の広場1 漢字の部首 ・資料をもとに紹介文を書く	10	・持続可能な未来を創るためにー人の暮らし方を考える /「エシカル」に生きよう ・森には魔法つかいがいる ・文法の小窓2 文の成分	2	・文法の小窓3 単語のいろいろ ・漢字の広場4 熟語の構成 ・四季の詩 ・少年の日の思い出
6	・言葉の小窓1 日本語の音声 ・ベンチ ・構成を考えて話す 期末テスト	11	中間テスト ・根拠を明確にして意見文を書く ・広告の情報を考える ・昔話と古典一箱に入った桃太郎 ・物語の始まりー竹取物語	3	・発言を結びつけて話し合う ・漫画で「物語」を表現する ・蜘蛛の糸 ・言葉の小窓3 方言と共通語 ・書写 学年末テスト
7	・全ては編集されている ・写真で「事実」を表現する ・漢字の広場2 画数と活字の字体 ・材料を整理して案内文を書く ・書写	12	期末テスト ・故事成語 ・子どもの権利 ・言葉と社会2 イメージを言葉にする ・調べた内容を聞く ・漢字の広場3 漢字の音と訓 ・書写		

社会科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法(評価物)	
	主に評定に直接かわるもの	主に学習の改善のために使うもの
知識・技能	・ 定期テスト ・ パフォーマンス課題	・ 授業での知識・技能を必要とする発言 ・ ノートやワークシートへの考え・振り返りの記述
思考・判断・表現	・ パフォーマンス課題 ・ 定期テスト ・ 授業での思考・判断を必要とする発言	・ 授業での思考・判断を必要とする発言 ・ ノートやワークシートへの考え・感想・振り返りの記述
主体的に学習に取り組む態度	・ ワークシートへの記述 ※単元の初めと終わりに行う自己評価 ・ 全ての評価物への取り組み	・ 授業での思考・判断を必要とする発言 ・ ノートやワークシートへの考え・感想・振り返りの記述 ※自らの学びをどれくらい変えようとしているかを見る

2. 学習の仕方

【授業中】

《一番大事なこと》

- ・ これまでに学んだ「事実」や「見方・考え方」を、話し合い活動の場で使うことができるよう、常に意識する。
- ・ 「単元を貫く問い」や「その日の問い」を、常に意識する。

《ノートの作り方》

- ・ 資料から気づいたことや分かったこと、問いに対する自分の考えを、しっかり書く。
- ・ 板書されたことを写すだけではなく、先生が説明したポイントやクラスメートが発表したことで大切だと思うことが、メモされてあると良い。

《発表・発言》

- ・ 前回までの授業を振り返りながら、資料や既習事実、自らの体験などを根拠・理由とした発言を心がける。
- ・ クラスメートの発言をふまえた発言を心がける。（「〇〇さんに似ていますが…」「〇〇さんに付け加えて…」「〇〇さんに反対で…」など。）
- ・ 考えや意見は、先生に対してではなく、クラスメートに対して伝わるよう発言する。

【家庭学習】

【やるべきこと】

- ・ 授業で学んだことを、「その日」のうちに振り返る。
- ・ 課題が出されたら、提出期限までに計画的に進める。

【オススメすること】

- ・ 授業で学んだ語句や用語などを確認し、単に暗記するのではなく、「意味」や「背景」を理解するようにすると良い。
- ・ 授業中に確認した資料の見方、作図の仕方などを確認する。図や表を用いながら、学習した内容をまとめてみるとなおよい。
- ・ ニュースや新聞を日常的に見るようにする。またその原因を考えたり、授業で学んだことと関連させながら考えられるとなお良い。

3. 指導計画（第Ⅰ学年社会科）

Ⅰ学期		2学期		3学期	
月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)
4	オリエンテーション 【地理】世界の姿 【地理】日本の姿 【地理】人々の生活と環境 【歴史】人類の始まりと文明 【歴史】日本列島の人々と国家の形成 期末テスト	8	【地理】身近な地域の調査 (夏休みの宿題)	1	【歴史】古代から中世へ 【歴史】鎌倉幕府の成立 学年末テスト 【歴史】室町幕府の下剋上
5		9	【地理】世界の諸地域(アジア州)	2	
6		10	【地理】世界の諸地域(ヨーロッパ州) 【地理】世界の諸地域(アフリカ州) 中間テスト	3	
7		11	【地理】世界の諸地域(北アメリカ州) 【地理】世界の諸地域(南アメリカ州) 期末テスト		
	【歴史】古代国家の展開	12	【地理】世界の諸地域(オセアニア州)		

数学科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法（評価物）	
	主に成績に直接かわるもの	主に学習の改善のために使うもの
知識・技能	定期テスト	小テスト、ノートの記述、ワークシート
思考・判断・表現	定期テスト、パフォーマンス課題	ノートの記述、ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	振り返りシート、パフォーマンス課題、ノートの記述、授業でのパフォーマンス	

2. 学習の仕方

【授業】

授業を受ける土台となる「みんなで話し合う」「意見を出し合う」「発言を聴き合う」姿勢があった上で、数学的な見方・考え方を生かすことを意識しよう。

【いつも大切にしたいこと】

- ・問題を解決して終わるのではなく、解決したことから何が分かるのかを明らかにしよう。
- ・別解はないか考えてみよう。
- ・考えを発展させて、例えば違って見えていたことが同じにとらえられないか考えよう。
- ・問題の文章にこだわって、その場面や状況をとらえよう。

【こういう風に授業を受けて欲しい】

- ・思いついたことをつぶやいたり、ノートなどにメモしたりすることを大切にしよう。
- ・見通しを持って、図やグラフの中に分かることを書き込もう。
- ・教科書に書いてあることの意味を考えよう。
- ・手順どおりに処理できるだけでなく、なぜその手順ができるのか理由・根拠を考えよう。
- ・他の方法はないか、自分だったらどう考えるか、別の場面ならどうなっているか想像しよう。
- ・授業をその日のうちに振り返って「何が分かったか、何が分からないか」をはっきりさせよう。

【ノートのとり方】

- ・ノートに、自分だけでなく友達の見解なども書き残しておこう。
- ・その授業の中で、「自分がどう考えていったか」が見えるノートを作ろう。

【家庭学習】

授業で取り組むこと以外にも、その内容にかかわることを授業とは違う環境で考えてみる時間を大切にしよう。

【予習】

- ・次の時間の授業内容について、教科書の該当する部分の例・例題を読んでおこう。
- ・例・例題を読んだあと、それに関わる教科書の問やワークの問題を自分なりに考えて解答を書いておこう。

【復習】

- ・授業のあとはなるべく早く教科書の練習問題や章末問題、ワークの残りの問題を解いていこう。
- ・授業で学習したことや思考の流れを、ノートなどを見返して自分なりに整理しておこう。

【学習の注意点】

- ・間違っただけの問題は解答を見て、なぜ間違っただけなのか、どうすればよかったかをその都度確認しよう。
- ・答え合わせは、答えの丸写しはしないようにしよう。
- ・自分の力で解けるようになるために、ポイントだと思うことをメモのように書き残そう。
- ・分からないことや難しいこと、どう取り組んでいいか分からないことをそのままにしない。
- ・すでに解けた問題も、大切だと思うこと・忘れてしまいそうなことなどを書き残そう。

【テスト勉強】

授業や家庭学習で分からないままになっていることをひとつずつ丁寧に解決しよう。

- ・ノートやワークなどを見返し、同じ間違いをしているところや分からなかったところをはっきりさせよう。
- ・分からないところを、教科書で基本の解き方や意味を確認しよう。
- ・分からないところ・難しいところを、ワークの解説などを意識して読んで見直そう。
- ・ノートを見返し、解決する方法（解き方）をはっきりさせたり、どう考えることが大切なのかを理解しよう。

3. 指導計画（第1学年数学科）

1学期		2学期		3学期	
月	教材名（単元名）	月	教材名（単元名）	月	教材名（単元名）
4	1章正の数・負の数 1節正の数・負の数	9	3章方程式 1節方程式	1	5章平面図形 1節直線と図形
5	2節正の数・負の数の計算		2節方程式の利用	2	2節移動と作図 3節移動と作図の利用
6	3節正の数・負の数の利用	10	中間テスト 7章データの活用 1節ヒストグラムと相対度数 2節データにもとづく確率	3	4節円とおうぎ形 学年末テスト 6章空間図形 1節立体と空間図形 2節立体の体積と表面積
7	2章文字の式 1節文字を使った式 期末テスト	11	4章変化と対応 1節関数 2節比例		3節空間図形の利用
	2節文字式の計算	12	期末テスト 3節反比例 4節比例，反比例の利用		
	3節文字式の利用				

理科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法（評価物）	
	主に評価に直接かわるもの	主に学習の改善のために使うもの
知識・技能	・ 定期テスト ・ レポート	・ 実験操作 ・ レポート ・ スケッチ・作図 ・ グラフ
思考・判断・表現	・ 定期テスト ・ レポート ・ パフォーマンス課題	・ ワークシート ・ レポート
主体的に学習に取り組む態度	・ レポート ・ ふりかえり ・ パフォーマンス課題	

2. 学習の仕方

【授業】

理科は「なぜ?」「どうして?」という疑問を大切にする科目です。日常生活で見かける現象や身の回りの出来事に対して興味を持ち、調べてみようという気持ちを常に大切にしましょう。また、グループでの活動やディスカッションが多くあります。協力して問題を解決することを楽しみましょう。

〔知識・技能〕

- ・ 授業で扱った理科の用語や概念を適切に説明する。
- ・ 実験器具を適切に使い、実験を正しい手順で進める。
- ・ 実験結果を正確に記録し、数値や図を使って整理する。それらの得られたデータをグラフにするなどして、結果の分析や可視化をする。

〔思考・判断・表現〕

- ・ 実験をする前に、「もし～したら、～になるだろう」と予測する仮説を立てる。
- ・ 実験結果を基にして、「なぜそのような結果が出たのか」「仮説がどうして正しかった/間違っていたのか」を考察する。また、結果の数値だけでなく、それが何を意味するのか、どうしてそのような結果が得られたのかを説明する。
- ・ 自分の考えや発見を理論的に、専門用語や適切な表現を使って分かりやすく説明する。

〔主体的に学習に取り組む態度〕

- ・ うまくいかない時に、柔軟に考え方を変えたり、改善策を考えて実行する。また、授業で得た知識を他の状況に応用しようとする。
- ・ 自分の学びを振り返り、どの部分ができていたのか、どこが不足していたのかを自己評価する。また、反省を元に次に活かす努力をする。

【家庭学習】

〔知識・技能〕

- ・ 次回の授業内容を事前に教科書で確認しておく。
- ・ 授業で学んだ内容をノートや教科書を使ってしっかり振り返り、覚えるべきポイントを整理する。
- ・ 教科書や問題集を使って、知識の定着を図る。
- ・ 授業で行った実験や観察について、手順や結果を確認し、実験の技能を身につける。

〔思考・判断・表現〕

- ・ 実験の結果を分析し、予想と異なった場合にその原因を考え直す。
- ・ 理科の知識や実験結果について、自分の言葉で説明できるようにする。
- ・ 授業で出てきた疑問点を家庭で調べ、理解を深める。新たな視点から問題を考察する。

〔主体的に学習に取り組む態度〕

- ・ 授業で学んだ内容を深掘りしたり、自分の興味に関連するトピックを調べて学ぶ。
- ・ 学習内容を整理し、目標を立てて計画的に学習を進める。
- ・ 学んだ内容を家族や友達に説明することで、自分の理解度を確認し、学びを深める。

3. 指導計画(第1学年理科)

1学期		2学期		3学期	
月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)
4	○自然の中にあふれる生命	8		1	
	○いろいろな生物とその共通点	9	3章 水溶液の性質		
	1章 植物の特徴と分類				○生きている地球
5				2	1章 身近な大地
					2章 ゆれる大地
		10	4章 物質のすがたとその変化		3章 火をふく大地
			中間テスト		学年末テスト
	2章 動物の特徴と分類				
6			○光・音・力による現象		
			1章 光による現象	3	4章 語る大地
		11			
	○身のまわりの物質				
	1章 いろいろな物質とその性質		2章 音による現象		
	期末テスト		期末テスト		
7					
		12	3章 力による現象		
	2章 いろいろな気体とその性質				

音楽科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法(評価物)
知識・技能	定期テスト・歌唱テスト・ワークシートの記述内容
思考・判断・表現	定期テスト・ワークシートの記述内容
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート・グループ活動での様子・授業中の発言 振り返り(自己評価等で自分の状況を適切に捉えているか)

2. 学習の仕方

【授業中】 ☆音楽の授業は、「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」の4つの活動があります。 ☆大切にしたいキーワードは、「音楽を形づくっている要素（8つ）」と「知覚と感受」です。 音や音楽に興味をもち、積極的に音や音楽に関わる姿勢を大切にしましょう！ 音楽科の目標は、以下の3つです。 【※注】（ ）は2・3年生 ①曲想と音楽の構造（や背景）などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 ②（曲にふさわしい）音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを 味わって聴くことができるようにする。 ③主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化 に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにして（、音楽に親しんで）いく態度を養う。 ☆評価に関わって、がんばってほしいことは、以下の内容です。 【知識・技能】 ①知識…題材の内容を理解する。（定期テスト） ②技能…創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて、表現している。（歌唱テストなど） ③知覚と感受を結び付けて考えている。（ワークシート） 【思考・判断・表現】 ①表現（歌唱・器楽）…知覚と感受の関わりを考えながら、思いや意図をもっている。 ②鑑賞…知覚と感受の関わりを考えながら、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①粘り強く取り組んでいる様子 ◎学習内容に高い関心をもち、積極的に他者と関わりながら、粘り強く取り組んでいる。 ②自己調整しようとしている様子。 ◎他者へ助言したり、他者からの助言を参考にしたり、グループの演奏をより高めようとするなどして、 グループ全体の学習を調整しようとしている。 ◎自らのよかった点や改善点などに気づき、次の学習への見通しをもつことができています。
【家庭学習】 ①教科書に出てきた作曲者、作詞者について調べる。 →作曲、作詞した人の思いや曲が作られた時代背景を知ることにより、曲を深く理解することができます。 ②身の回りにある音について、聴き取ったこと（知覚）や感じ取ったこと（感受）を記録する。 →素材の違いによる音色の違い等に気づき、音楽に対する感性を豊かにすることができます。 ③今まで親しみのなかったジャンルの音楽を聴いてみる。 →幅広く音楽を聴くことで、音楽の興味を広げることができます。 ④響きのある歌い方で歌うには、どうすればいいか、自分で色々と歌い試してみる。 →一人一人体の構造が違うので、口の開け方、息の出し方、お腹の使い方など・・・ 自分に合う発声方法を見つけましょう！

3. 指導計画（第Ⅰ学年音楽科）

Ⅰ学期		2学期		3学期	
月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)
4	校歌 歌唱「We'll Find The Way」	9	附中のハーモニー課題曲 鑑賞「魔王」	1	箏曲「六段の調」
5	鑑賞「イメージと音楽」 創作 歌唱実技テスト	10	附中のハーモニー課題曲 鑑賞 雅楽「平調 越天楽」 歌唱実技テスト	2	器楽 箏 学年末テスト 国歌・校歌
6	鑑賞「春」 歌唱「浜辺の歌」 期末テスト	11	鑑賞 日本の民謡 歌唱「ソーラン節」 期末テスト	3	歌唱 アカペラ曲
7	附中のハーモニー課題曲	12	器楽 ギター		

美術科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法（評価物）
知識・技能	・定期テスト ・作品（実技テストを含む） ・ワークシート
思考・判断・表現	・作品 ・アイディアスケッチ ・ワークシート ・定期テスト
主体的に学習に 取り組む態度	・活動への取り組み ・振り返りシート ・作品 ・ワークシート

2. 学習の仕方

【授業中】

《準備・片づけ》

- ・次の授業は何をするのか把握し、事前に準備物を考えて用意しよう。
- ・制作時間を十分に確保するため、チャイムが鳴るまでに教室移動を行い授業準備をしよう。
- ・道具を大切に使い、次に使う人に配慮した後片付けと清掃を行おう。

《アイディア・鑑賞》

- ・これまでの経験や体験を通した心の動きや学びを活かして、作品作りに取り組もう。
- ・新しいアイディアが出てこない時は、教科書や資料集、タブレットによる検索等を活用し、様々な作品を参考にしてみよう。
- ・自他の作品の美しさや面白さなど良いところを見つけられる「感じとる力」を身につけよう。
- ・多様な意見に触れることを通して、見方・感じ方を広げ、深め、自分の制作活動に活かそう。
- ・アイディアスケッチでは、メモも活用しながら色々なアイデアを試し、より良いアイデアを考えていこう。

《制作》

- ・自分のアイデアをより良く表現するために、様々なやり方を考え、色、形、材料・道具の使い方など工夫し、最もイメージに合った表現方法を見つけよう。
- ・提出期限を把握し、計画的に進めよう。
- ・みんなの作品がより良いものになるよう、班で協力して取り組もう。

《振り返り》

- ・具体的に振り返り、学びの足跡をしっかりと残しておこう。（わかったこと、大切だと思ったこと、改善点、他の分野や将来に結びつくこと等）
- ・習得した知識と技術を、いろいろな場面（美術以外でも）で使えるようにしよう。

【家庭学習】

《集める・アイディアスケッチをする・写真に撮る・試す・考えをまとめる》

- ・普段目にするモノや景色をよく見てみよう。そして、使いやすさや、色や形、大きさ、美しさ、面白さなど、関心をもってみよう。
- ・自分の好きなもの、好きな創作物などをよく観察し、頭の中やスケッチブック、メモなどにイメージを蓄えていこう。
- ・作品のテーマについてじっくりと考え、調べ、作品の意図に奥行きを持たせよう。
- ・より良い創作活動に向けて、様々なものや経験を通し、自らの感性を高めよう。

3. 指導計画（第Ⅰ学年美術科）

Ⅰ学期		2学期		3学期	
月	教材名（单元名）	月	教材名（单元名）	月	教材名（单元名）
4	「オリエンテーション」	8		1	※【描く活動】 「感情を表す」 ・技法について
	【表現方法基礎】 「色忍者」 ・色彩について ・デザインセットの使い方について	9	（4週間教育実習）	2	【鑑賞】西洋の画家
5	【鑑賞】				
	（2週間教育実習）	10	※【つくる活動】 「オリジナル弁当」 ・彫刻について	3	学年末テスト
6	【描く活動】 「文字のデザイン」 ・レタリングについて	11			
	期末テスト		期末テスト		
7	【鑑賞】	12	【鑑賞】		

※状況に応じて、順番を変更したり、【メディア表現】に変更することもあります。

保健体育科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法(評価物)
知識・技能	・授業でのパフォーマンス ・ワークシート等の記入内容 ・定期テスト
思考・判断・表現	・授業でのパフォーマンス ・課題解決に向けた意見の内容 ・ワークシート等の記入状況・定期テスト
主体的に学習に 取り組む態度	・授業への取組状況 ・ワークシート等の記入状況

2. 学習の仕方

【授業中】

[体育分野]

- 自分の身体に向き合い、様々な運動種目に取り組もう。
 - ・授業への実質的参加を第一に考えましょう。
 - ・健康管理に注意をし、欠席、見学をしなくてもよいようにしよう。
- 安全への配慮をしましょう。
 - ・指定された体操服、体育館シューズを正しく身につけよう(爪も短くしておく)。
 - ・準備、片付けなど場の安全を確認してから行動しよう。
- 課題意識をしっかりと持ちましょう。
 - ・どうしたらうまくできるのか意識して取り組もう。
 - ・基本的なレギュレーションや技名は予習して授業に挑もう。
- いつでも、どこでも、誰とでも学ぼう。
 - ・仲間を大切にし、互いに学びあう関係を築こう。

[保健分野]

- 教科書の内容を中心に理解し、探求的に課題に取り組もう。
- 課題意識をしっかりと持ちましょう。
 - ・資料を活用し、学んだ内容を整理しておこう。
- いつでも、どこでも、誰とでも学ぼう。
 - ・仲間を大切にし、互いに学びあう関係を築こう。

【家庭学習】

- 健康な状態で授業に臨めるように体調を整えましょう。
 - ・健康を維持する行動を心がけよう。また、保健分野で学んだことを生かそう。
- スポーツ事象に関心を持ちましょう。
 - ・観ることもスポーツへの関わり方のひとつです。普段からスポーツに関心を持とう。
- 人々の生活に関心を持ちましょう。
 - ・様々な生活環境・基盤・背景に関心を持ち、暮らしとの関わりを考えてみましょう。

- 定期テストでは、授業で学んだことが出題の範囲となります。

[体育分野]

- ・からだで得た感覚を整理する。
- ・副読本でレギュレーション(規制・規則)やからだの動きを確認する。

[保健分野]

- ・資料や教科書の内容、領域によっては実習の手順を確認する。

3. 指導計画（第Ⅰ学年保健体育科）

Ⅰ学期		2学期		3学期	
月	教材名（単元名）	月	教材名（単元名）	月	教材名（単元名）
4	体づくり運動 （体ほぐしの運動） 体育理論 （運動やスポーツの多様性）	9	ダンス 保健分野 （心身の発達と心の健康）	1	球技 （ゴール型） 保健分野 （心身の発達と心の健康）
5	陸上競技 （短距離・リレー） 保健分野 （健康な生活と病気の予防①） 球技 （ネット型）	10	球技 （ベースボール型） 保健分野 （心身の発達と心の健康） 球技 （ゴール型）	2	体づくり運動 （体力を高める運動） 武道 （剣道） 学年末テスト
6	保健分野 （健康な生活と病気の予防①） 器械運動 （マット運動） 期末テスト	11	球技 （ネット型） 保健分野 （心身の発達と心の健康）	3	
7	水泳の心得	12	期末テスト		

技術・家庭科(技術分野)

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法(評価物)
知識・技能	定期テスト・作品・授業プリント・技術ノート
思考・判断・表現	定期テスト・授業の様子・作品への取り組み・提出物・授業プリント・技術ノート
主体的に学習に取り組む態度	授業の様子・提出物・授業プリント・技術ノート・定期テスト

2. 学習の仕方

【授業中】

〔知識・技能〕

- ・授業で学習したことをノートやプリントに記述し、次の工程につなげる。
- ・計画された工程により作品を仕上げることができる。
- ・安全面に気をつけて、効率的でより早く丁寧に作品を仕上げるができる。

〔思考・判断・表現〕

- ・既存のさまざまな製品にある技術や工夫に気付くことができる。
- ・既存の製品の課題を見出し、より良くするためのアイデアを考える。
- ・自分のアイデアや考えを、周りの人に説明できる。
- ・作品を作る上での課題に気づき、どうすればよいか考え工夫できる。

〔主体的に学習に取り組む態度〕

- ・授業や実習に意欲的に取り組むことができる。
 - ・「学習してわかったこと」「考えたこと」「疑問に思っていること」等を振り返りをノートやプリントにしっかりと記入する。
 - ・自己評価をする。自分の取り組みで、良かった事や、課題等を具体的に振り返る。
 - ・ロイロノートでの提出が多くなります。しっかりと提出できるようにしましょう。
- ※ICT機器(iPadなど)を有効に活用しよう。

【家庭学習】

〔知識・技能〕

- ・教科書, ノート, プリントを用いて, 新しく学習した語句や道具の使い方等を理解しましょう。

〔思考・判断・表現〕

- ・普段の生活の中でも, さまざまな製品にある技術や工夫を考えてみよう。
- ・学習した内容と身近な技術との関わりについて, 考えてみよう。

〔主体的に学習に取り組む態度〕

- ・技術の発達場面でどんな技術があるか考え, 興味を持つことができる。
- ・技術が生活でどのように工夫されてきたかを考えることができる。
- ・技術開発のすばらしさに気付き関心をもつ。
- ・教科書, ノート, プリント等で授業の内容を見直そう。

※ICT機器(iPadなど)を有効に活用しよう。

3. 指導計画 【第1学年技術・家庭科(技術分野)】

1学期		2学期		3学期	
月	教材名(単元名)	月	教材名(単元名)	月	教材名(単元名)
4	・生活や社会における技術の役割 ・技術で学ぶこと ・技術を見つけよう ・技術と私たちの生活 ・情報に関する技術	8		1	・点検
		9	・製作品の構造について ・木材による製作 ・工具について		・組み立て
					・仕上げ
5	○材料と加工に関する技術 ・製品の工夫と技術の進歩 ・ものづくりの視点と進め方 ・さまざまな材料 ・木材の特徴	10	中間テスト	2	・点検
			・けがき		・プレゼン
					学年末テスト
6	・製図	11	・切断 ・部品づくり ・くぎ接合・くぎ抜き	3	・日本の伝統の技(技術)を知る。
7	・構想したものを図で表す。	12			

技術・家庭科（家庭分野）

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法（評価物）
知識・技能	・ワークシート ・作品 ・実習 ・定期テスト ・実技テスト
思考・判断・表現	・ワークシート ・定期テスト ・作品 ・パフォーマンス課題
主体的に学習に 取り組む態度	・ワークシート ・振り返りシート

2. 学習の仕方

【授業中】

〔知識・技能〕

- ・学習内容を日常生活と結びつけて考えていきましょう。
- ・技能は繰り返し練習し、定着をめざしましょう。

〔思考・判断・表現〕

- ・生活経験や科学的な根拠にもとづいて考えていきましょう。
- ・さまざまな視点をはたらかせ、「本当にこれでいいの？」と見直していきましょう。
- ・自分や家族の生活の中にある課題を見出し、その課題解決の方法や工夫を考えていきましょう。（地域・社会・地球環境にも目をむけていこう）
- ・自分の考えや意見を積極的に発信していこう。また、仲間の考えや意見を受けとめ、互いに学び合う関係を大切にしましょう。

〔主体的に取り組む態度〕

- ・振り返りシートを用いて、課題をみつけ、よりよい生活につながる改善策や工夫を考えていきましょう。

【学習する環境を整えよう】

- ・授業に必要な教科書や実習で必要な材料・準備物を整える。
調理実習：エプロン、三角巾、マスク、布巾 被服実習：裁縫セット

【家庭学習】

○実践する

学習を通して学んだことを家庭で実践してみましょう。実践して気づいたこと、見つけた課題や改善点などを次の学習につなげていきましょう。

○さまざまな人々と関わる

家族や友だちなど身近な人だけでなく、地域の異なる世代の方との関わりも大切にしましょう。さまざまな人々と関わることで家庭科の学びが深まります。

○課題発見

よりよい生活をめざし、自分や家族の生活や社会の中の課題を意識的にみつける姿勢をもとう。ニュースや新聞などで確かな情報をつかむことも大切です。

3. 指導計画【第1学年技術・家庭科(家庭分野)】

1学期		2学期		3学期	
月	教材名(単元名)	月	教材名(単元名)	月	教材名(単元名)
4	ガイダンス	9	持続可能な衣生活	1	食事の役割
	家族・家庭生活		住まいの働き		健康に良い食習慣
	衣服の働き		住まい方の工夫		栄養素の種類と働き
5	自分らしくコーディネート	10	安全な住まい (家庭内事故への備え)	2	中学生に必要な栄養素
	和服の文化		(健康を守る室内環境)		6つの基礎食品群
	上手な衣服の選択		中間テスト		学年末テスト
6	日常着の手入れと保管 (衣服の手入れ)		(防火対策)	3	食品群別摂取量のめやす
	(めざそう洗濯名人)		(防犯対策)		
	(補修や収納・保管)	11	(災害への備え)		食事の点検 (栄養バランス)
	<手縫いの基礎> ・まつり縫い ・スナップつけ				
	作品製作		快適な住まい (住まいの掃除)		
7	↓	12	持続可能な住生活		

英語科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法（評価物）	
	主に評定（成績）に直接関わるもの	主に学習の改善のために使うもの
知識・技能	定期テスト、単元末ミニテスト、パフォーマンステスト（スピーチ、プレゼン、英作文など）など	テスト各種 授業中に出された課題 振り返り
思考・判断・表現	定期テスト、パフォーマンステスト（やり取り、スピーチ、プレゼン、英作文など）など	
主体的に学習に 取り組む態度	テスト各種、授業中に出された課題、振り返りなど	

2. 学習の仕方

【授業中】

すべての授業において, 積極的に人と関わる姿勢や, 主体的・意欲的に授業に取り組む姿勢を大切にしましょう。

【知識・技能】

・外国語の音声, 語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの知識を身に付け, それらを実際のコミュニケーション(聞く・読む・話す・書く)で活用できるようにしましょう。

【思考・判断・表現】

・目的や場面に応じて, 簡単な情報や自分の考えを外国語で理解・活用・表現できるようにしましょう。

【主体的に学習に取り組む態度】

・相手の気持ちや状況, 目的や場面を考えながら, コミュニケーションをとりましょう。
・間違いを怖れずに, 外国語でコミュニケーションをとりましょう。
・授業を毎回振り返り, 自分の学習状況を把握しましょう。次の学習の見通しを持って, 計画的に取り組みましょう。

【家庭学習】

【知識・技能】

・自分が使いたい英語表現を, 必要に応じて繰り返し練習し, 使えるようにしましょう。
・教科書の音声教材を活用して音読練習を行い, 正しい発音やイントネーションを身に付けましょう。

【思考・判断・表現】

・目的や場面, 状況を考えて, 自分の考えを英語で伝えたり, 書いたりしましょう。
・プレゼンテーションやスピーチなどを通して, 目的や場面に応じた英語表現を使って話す練習をしましょう。

【主体的に学習に取り組む態度】

・自分の学習状況に応じて, 自分の力を伸ばすために必要な学習に取り組みましょう。
・外国語の習得には約2,000時間の学習が必要だという研究もあります。
・授業では年間およそ140時間しか学習できません。本当の英語力を身に付けるには, 授業以外でどれだけ英語に触れるかが大切です!

3. 指導計画(第1学年英語科)

1学期		2学期		3学期	
月	教材名(単元名)	月	教材名(単元名)	月	教材名(単元名)
英語の学び方を学ぶ!		自分の学び方を確立する!		英語の力をどんどん伸ばす!	
4	Unit 0 pp.6-7 Sounds and Letters 0 Grammar for Communication 0 Unit 1 pp.11-17	8		1	Unit 9 pp.103-110 Winter Vacation ☐ 過去の出来事について説明したり、たずねたりすることができる。
5	Sounds and Letters 1 p.18 2週間教育実習 Unit 2 pp.19-25 Our New Teacher Sounds and Letters 2 pp.26-27 Grammar for Communication 1	9	4週間教育実習 Unit 5 pp.61-68	2	Unit 10 pp.113-120 This Year's Memories ☐ 過去の状態や気持ち、過去のある時点でしていたことについて説明することができる。 Real Life English 6 p.121
6	Unit 3 pp.31-37 Our School ☐ 知らないものや人についてたずねたり、いつ・どこなのかをたずねたりすることができる。 Sounds and Letters 3 pp.38-39 Grammar for Communication 2	10	Real Life English 1 p.69 Grammar for Communication 4 Unit 6 pp.71-78 A Rakugo Performer from the U.K. ☐ 自分と相手以外の人について話したり、だれのものかをたずねたりすることができる。	3	Stage Activity 3
7	Sounds and Letters 4 Grammar for Communication 3 Stage Activity 1	11	Unit 7 pp.81-88 An Online Tour of the U.K. ☐ 今していることについて説明したり、たずねたりすることができる。 Real Life English 3 p.89 Unit 8 pp.91-98 Think Globally, Act Locally ☐ したいことや、する必要のあることなどについて説明したり、たずねたりすることができる。		
		12	Stage Activity 2		